

女性化乳房：原因と対策(5月29日)

男でも乳房が大きくなることがあり、乳腺組織を伴う乳房腫大を女性化乳房といいます。胎児期に超高濃度の女性ホルモンにさらされた新生児乳児あるいは思春期以降の男児に見られるものです。海外では思春期以降の男性の悩みの種になることも多い症状で、治療法の確立が望まれる疾患とされています。日本でもしばしば思春期以降の男子が胸が膨らんできたと受診することがあります。

男で女性ホルモンと男性ホルモン双方が必要で、特に胎児期は女性ホルモンが生命のホルモンとして働くので女性ホルモンが働かない状況では生まれて来ません。

女性では、女性ホルモンの大部分は卵巣でつくられますが、男性では女性ホルモンの85%以上は脂肪組織あるいは皮膚での男性ホルモンから女性ホルモンの変換によって行われます。この反応を行う酵素をアロマターゼといいます。多くの女性化乳房の原因も男性ホルモン/女性ホルモンのバランス、あるいは女性ホルモン感受性が高い事、によるのでしょう。ただしいくら男性の乳房乳腺組織が大きくなっても母乳(男乳というべきか)を分泌することは、胎盤からのプロゲステロン分泌がないためありません。

女性化乳房の大部分は軽度で自然に目立たなくなるものですが、肥満症の方では立派な乳房を示す方もいます。肥満の方は脂肪組織が多いために女性ホルモン産生が多くなるために乳房がより大きくなるためです。このため女性化乳房を避けるように仕向けることで肥満治療の動機づけにします。

家族性のアロマターゼ過剰症、男性ホルモン不応症、稀な染色体異常症が女性化乳房を契機に発見されることがあります。

大部分治療は必要ないのですが、乳腺外科に行くと手術を勧められることも多い様です。薬物的治療法としてアロマターゼ阻害薬があるのですが、これを使うと女性ホルモンの作用をなくすことになるので使わない方が良いと思われます。選択的女性ホルモン受容体作動薬の1つであるエビスタ(本来は閉経後骨粗しょう症治療薬)が女性化乳房に有効であると報告されています。私も数例で試みましたが、乳房は半分程度には小さくなるようで、継続治療を希望される方も多い状況です。

右表：女性化乳房の原因
Williams Textbook of Endocrinology
11th edition, 2007

INCREASED PRODUCTION OF ESTROGEN PRECURSORS
Adrenal tumors Liver disease 17-β-hydroxysteroid dehydrogenase deficiency
INCREASED AROMATASE ACTIVITY
Increased Activity in Normal Tissue Obesity Aging Aromatase Dysregulation Familial aromatase excess syndrome Neoplasms caused by eutopic estrogen production: Sertoli cell tumors (isolated, Peutz-Jeghers syndrome, Carney complex), hCG-producing trophoblastic tumors Neoplasms caused by ectopic estrogen production: feminizing adrenocortical carcinoma, hepatocellular carcinoma
ALTERED TESTOSTERONE-TO-ESTROGEN RATIO DUE TO DECREASED ANDROGEN PRODUCTION OR ACTION
Androgen insensitivity syndrome 5-α reductase deficiency Thyrotoxicosis Klinefelter's syndrome

hCG, human chorionic gonadotropin.
Modified from Braunstein GD. Aromatase and gynecomastia. Endocr Relat Cancer 1999;6:315-324.